

◆生物多様性シンポジウム in 北杜市

北杜市における人と自然の関係を見直すとともに、森・川・海のつながりを確保し、自然環境の保全、市民意識の向上を図り、生物多様性について社会に浸透させることを目的に開催、気候変動と生物の関係にもふれる

- *日時:令和8年2月14日(土)13:00~16:30 *場所:長坂コミュニティ・ステーション
- *主催:北杜市地球温暖化対策地域協議会 *入場料無料 *事前申込:不要 *参加定員:400名
- *内容:基調講演「生物多様性のモニタリング」山梨県富士山科学研究所 自然環境共生研究科研究員 安田 泰輔氏
活動発表:県内4つの高校、地域の企業・団体による パネルディスカッション ここまでの登壇者による
- ◎問合せ・申込み:北杜市地球温暖化対策地域協議会(北杜市役所環境課内) TEL:0551-42-1341

◆住宅と暮らしから考える地球温暖化 ~令和7年度 地球温暖化対策セミナー in 甲府市

地球温暖化の問題は、建物の断熱や省エネ機器の利用など住宅やその設備と強い関連があります。今回のセミナーでは国内外20か所以上での暮らしの経験の元に、住宅とライフスタイルの両面から地球温暖化について考えます。併せて、第2回「地球温暖化に関する小中学生の作文募集」の表彰式と受賞作品の発表を行います。

- *日時:2026年3月7日(土)13:30~16:00 *会場:リッチダイヤモンド総合市民会館 1F 芸術ホール(定員500名)
- *参加申込締切/2月27日(金)必着 *主催/甲府市地球温暖化対策地域協議会
- *内容:講演「地球温暖化を加速させない暮らし 地球温暖化に耐える暮らし」チリウヒーター株式会社副社長 八ヶ岳エコハウス「ほくほく」事務局 AMATELSOLAR 協会 川合英二郎氏 「地球温暖化に関する小中学生の作文募集」表彰式・展示
- ◎問合せ・申込み:甲府市地球温暖化対策地域協議会(甲府市環境政策課)TEL:055-241-4363

◆やまなし環境活動推進ネットワークフォーラム

- 県内で環境保全に取り組む個人・団体・企業・高校・行政が活動発表、課題解決に向けて情報交換やネットワーク作り促進する
- *日時:令和8年2月8日(日)13:15~16:30 *会場:山梨県防災新館1階オープンスクエア
- *参加費無料 *主催:(公財)やまなし環境財団・環境パートナーシップやまなし
- *内容:「つなげよう、持続可能な環境と笑顔の未来~今日のチャレンジは明日への希望~」をテーマに、各団体・企業・高校、参加者が交流を深めるポスターセッション、若宮賞の表彰式など
- ◎申込み:山梨県森林環境部自然共生推進課(公財)やまなし環境財団・環境パートナーシップやまなしへ FAX かメール
FAX:055-223-1781 E-mail:shizen@pref.yamanashi.lg.jp

◆山梨の子ども白書 第5集 書籍のご案内



教育の集いyamanashiに集った個人や団体により、子供たちの実情を可視化すること、子供を支える活動の現状を自治体の政策提言につなげるために刊行を継続。JCCCA 高田研氏やキープ協会 鳥屋尾健も、気候変動を切り口に原稿を寄せる

◆100年後の山梨県 普及啓発マンガのご案内



山梨県 新価値・地域創造推進局 地域エネルギー推進課 発行、マンガによる普及啓発冊子。地元サッカーチーム・ヴァンフォーレのキャラクターと共に時代をワープしながら、気候変動の現状を学び、今自分たちにできることを考える内容。主に教育現場での活用を狙う

◆富士山の麓の魅力的な施設
「富士山のぬく森 キポキポ」に取材に行きました



ご案内は、山梨県恩賜林組合 森林環境課の渡辺香織さん。脱炭素の視点、子どもの育つ場としてのデザイン、その想いや特徴、体験活動についてお話を伺いました。キポキポは乳幼児期~小学校低学年を対象に、木や森とたっぷり触れ合える体験施設。愛らしい名称「キポキポ」の由来は、「木で歩く」という意味と、「保育(育ち)の場」という二つの想いが込められているそう。まさに木と一緒に一步一步育っていく子どもの姿が思い浮かびます。まず木造建築の施設の前に立つと建物そのものが脱炭素やカーボンニュートラルを感じられます。木の温もりにも包まれる室内は、富士山麓の木材(アカマツ・カラマツ等)も使われており、木の断熱性や調湿性のおかげで冷暖房に頼りすぎなくても快適。環境にも人にもやさしい空間でした。

館内のおもちゃや遊具のほとんどは木製。富士山をモチーフにした滑り台や、忍野八海をイメージした湧水の魚つりコーナーなど、地元らしさを感じられる仕掛け。木の手ざわりや香り、重さや音を感じながら、子どもは夢中で遊んでいました。施設内は裸足で過ごすようおススメしているそうですが、最初は戸惑う子ども最後には「まだ帰りたくない!」と言うそう。木の心地よさに包まれて心がほぐれていくのかもしれない。

木工室のクラフト体験も魅力的です。材料は、恩賜林組合が作る寄付金の木札や、地元中学校の富士山登山記念標札を作る際に出る端材等が使われており、森の恵みを大切に無駄なく使う工夫がされていました。ひとつずつ違う木目や形を前に、子どものあそび心や想像力は全開に。「子どもの発想にいつも驚かされます!」と渡辺さん。

キポキポで育まれるのは、知識よりも前にまず「木って気持ちいい」「森って楽しい」という自然への愛着。乳幼児期は、五感や体全体で“まわりの世界”を学び取っていく時期です。森や木と共に生きる感覚を育み、富士山の裾野のような懐の深さで、子どもの成長を見守ってくれる——そんな“ぬく森”があふれる施設でした。ご対応いただいたスタッフの皆さま、ありがとうございました。

今回の取材を通して感じたことは、気候変動や脱炭素という社会課題に対して、自ら考え行動する人を育てるための“原点の施設”。木は成長する過程で吸収した二酸化炭素を建物の中に“固定”する。こういった知識を先に覚えるのではなく、まずは木の素材でたっぷり遊んで、木の気持ちよさや、言葉を越えた木の安心感を感覚で受け止める。やがて、その子どもは成長の中で森について考える時期がきたときに、大切に想うでしょう。自然と共生した生き方を創造していくはず。とても奥深い、素晴らしい施設。皆さんも是非! 来訪を

◆富士山のぬく森キポキポ 山梨県富士吉田市上吉田 5605-3 TEL:0555-22-3219 <https://www.kipokipo.jp/>

脱炭素につながる未来の環境を考える実践 推進事業
(山梨県地球温暖化防止活動推進員研修会兼ねる)

2026年
1月14日(木)
山梨県立図書館

山梨で「見つけるエシカルな暮らし」

～やまなしのゼロカーボンの未来を描く～



キコク 推進員リスト

taneto

<https://taneto.jp/>



気候危機解決策リスト作成中!



岩崎舞さん

エシカル×テラ
taneto 編集長

tanetoは「いのちがめぐる暮らし」をコンセプトに山梨県内のエシカルなお店や活動の情報をお届けするウェブメディアです。地域の自然や環境の特色を生かした、あたたかな手作りの情報あふれる活動をどうやって世に広げていくか!皆さんで考えていきましょう!

カーボン <山と溪谷社>
炭素をめぐる生命と循環の物語
ポール・ホーゲン著 倉田真木訳

- tanemap (おすすめのエシカルスポット)
- 暮らしのつくり手を訪ねて
- たねまき日記
- イベント情報 などなど...

tane labo

東京生まれ、甲府市在住。セラピスト歴18年。子どもたちがどんな未来を生きていくのか考えた時に気候危機という社会課題に出会う。2023年やまなし未来共創プロジェクトの採択を受け「taneto」も開設。Regeneration Japan 運営委員、山梨総合研究所 特別研究員。

気候変動について知って、すごくショックを受けたけれど「最初はまわりに話せる人がいなくて...」

お話会の開催や甲府環境市民会議・立ち上げなど手さぐりで進みはじめました



環境が整ってこそ健康でいられる

エシカル=道徳・倫理

『気候変動』というワードをあまり使わないように試しています



話が壮大すぎ...

難しそう...

忙しいし...

言葉は分かりやすくしてくれる

けど、分けてしまう。「気候変動」や「環境問題」という言葉を使うことで、「関心がなければ」「自分には関係ない」と感じる人もいる。

「たとえば」人権 などより人の気持ちに寄り添った方が

楽しい

おいしい

気持ちいい

伝わりやすい
うまいく!

環境問題について語るとき

『こうすべき』になりがち

『やってみよう!』につながらない...



発酵食品が生まれる背景
微生物たちの営み
トーフ&お買物タイム

甲州市/発酵テラメント

「いい人」「いい事業」が育ち合う土壌を地域に耕す!トーフ



笛吹市/noutoエッセ直売所

変わってしまう世界に不安を募らせるのではなく

自分たちの手で、あたたかい暮らしをつくっていく!

tanelaboは実際にその場に身を置き、体験を通して学び合える場



「公開取材」というスタイルで
共に訪ね、体感し、語り合う場へ

清泉寮のジャージー牧場の
牧場見学や乳しぼり&トーク



北杜市/キーツ協会酪農事業部

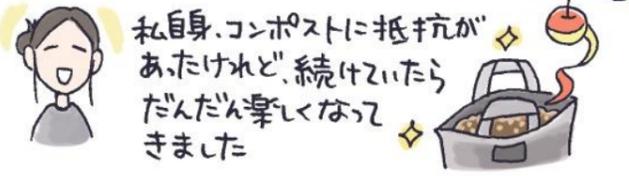
野生のお肉が口に運ばれるようになるまでのお話と鹿の解体



山梨県内/山祇Giber

意識が変わり、行動変容につながる

「行動変容や体験から意識が変わる」



私自身、コンポストに抵抗が
あつたけれど、続けていたら
だんだん楽しくなつて
きました

「まずやってみよう!」が大事 / 子どもには



薪ってこんなに
使うの?!

何にも伝えて
いなくても、ただ体験
しに行っていたら、長けは
ごみ拾いしたり
ものを直して
使うようになりました

Q. 情報発信、人あつめについてどんな工夫をしている?

A. 講習会を企画した時、最初は申し込みが2名しかなく...「宗教っぽい」「何か買わせろや」という声があり、表現を変えて満席に。相手はどう感じるのか反応を見ながら発信しています。イベントは「飲食」との組み合わせは人気高し。コラボレーションが◎

Q. 活動で感じる「山梨の特徴」「キラリと光る所」は?

A. 活動しはじめるとすぐに知らせてもらえるし、協力してくれる人も見つけやすい。つながりたい人にはすぐなげえもらえる情報の広まりやすさもメリット。ただ、ネガティブな情報がまわるのも早く、時に「ノイズ」を感じる時も...

Q. 自分のキゲンはどうやってとる?

A. 「楽しくポジティブに」がすべてではなく、「ネガティブなパブリティー→答えのない事態に耐える力」が大事。ダメでも大丈夫。しんどくなった時にどうすれば「ゴキゲン」に戻せるのか、自分に合うリカバリー方法をたくさん知っておきたいですね。

Q. tanetoの規模をもっと大きくしたい?

A. 大きくすることよりも、今は小さく濃くやりたいですね。子育て中なので、キパオーバーになることと続けたい。ひとつひとつ大切に積み重ねながら自分のペースで育てて、結果的に関わってくれる人やつながりが大きくなったら嬉しいなと思っています。

終了後の参加者さん同士の交流やお互いの活動紹介の時間も研修会の鬼まかのひとつ! 次回もぜひご参加ください



鳥屋尾センター長

山梨県地球温暖化防止活動推進センターHPでは活動かに使えろ小情報や教材もたくさん!

